

登呂エリアの「優れている点」・「改善すべき点」

	優れている点	改善すべき点
エリア全体	<p>【規模】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパクトな遺跡（吉野ヶ里遺跡と比べると） 水田跡、復元家屋、芹沢美術館、博物館がコンパクトにまとまっている。 芹沢美術館と登呂遺跡をセットで見ることができる。 遺跡がコンパクトに集約されており、箱庭的なイメージで、親しみやすい。 	<p>【規模】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパクトを生かしきれていない（吉野ヶ里遺跡と比べると） 敷地が広く感じられ、コンパクトにまとまっている方が見やすい。 駐車場を含めて敷地・キャパシティが小さい。 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> どの年代を主なターゲットにしているか不明。 全体を回遊誘導するマップや資料が欲しい（すでにあるかもしれませんが） <p>【集客】</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館、美術館の特別展以外にリピート訪問の動機が少ない。 見て回るところが少ない。 天候に左右される。 登呂遺跡・博物館と芹沢美術館の来場者層がリンクしない。館の性格の違いがあるにせよ、両館を含め敷地全体を一体的に見せ、両館への入館を促進したい。
登呂遺跡公園	<p>【特別史跡としての価値】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史の教科書に記載、国の特別史跡(1952年)に認定され歴史がある。 弥生時代遺跡の御三家（登呂、吉野ヶ里、原の辻遺跡（壹岐））である。 弥生時代の水田跡、高床式倉庫、竪穴式住居などが再現、復元され残っており、学術的にも貴重な遺跡である。 国の特別史跡に指定されている。 全国に3か所しかない弥生時代の特別史跡で、30代以上の世代にとっては、弥生時代＝登呂遺跡（古代の遺跡＝登呂遺跡）の圧倒的なブランドイメージがある。歴史で最初に習うため、誰もが覚えている。 登呂遺跡は歴史文化資源としての価値が高い。 <p>【充実した体験メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火起こし等の体験実演 水田の栽培・収穫実習を実施できる 火おこし体験や機織り体験など、体験できるブースが充実している。 登呂遺跡で子供たちが古代米の田植え・刈り込み体験ができること 田んぼ、復元家屋には自由に入ることができる 水田が復元されており、「日本の農村の原風景」が表現されている。古代米が栽培され、農作業体験もできる。火起こし体験や赤米の土器炊飯などの古代の日常生活体験もできる。 <p>【充実したボランティアガイド等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる解説がある。 説明してくれる方の知識が豊富。 以前見た復元家屋と現在の物との違いが「説明を頂いて」理解できた。 インバウンド需要に対する音声ガイドが対応できている。 <p>【恵まれた景観、自然環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 富士山が見える 天気が良ければ屋上から富士山が見える。 コウノトリが降り立つほどの自然環境に恵まれている ザリガニやトンボが採れる。 <p>【イベントの開催等による活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なイベントが開催されている。（特に、カンヌウィークでの野外上映は素晴らしい） 屋外イベントができる。 「場の力」を感じる。祭殿もあり、屋外イベント会場としての活用可能性が高いのではないかと。キュウソネコカミのミュージックビデオの撮影ロケとして活用された。 「とるエンナーレ」の発想はよい。古代×現代アートで、市域全体にネットワーク化して広げると、大化けする可能性があるのでは。 <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元「登呂会」との連携が出来ている。 	<p>【特別史跡としての存在感の希薄化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史の教科書から外れてきている。 20代以下の世代にとっては、吉野ヶ里遺跡（1991年特別史跡指定）、三内丸山遺跡（2000年特別史跡指定）の方がむしろ知名度は高い。古代の遺跡におけるワンオブゼムであり、覚えていない人もいる。 登呂遺跡の意義（※）の情報発信 ※神国日本の歴史が否定されて自信を失っていた戦後直後の日本において、米作の日本文化の源流を明らかにしたムラ（住居跡、水田、水路等）が丸ごと出現し、日本国憲法の公布の際の昭和天皇の国会での詔勅にある「文化国家の建設」への第一歩となったこと。裁判官がヤミ米を食べずに餓死する時代に、全国的な請願運動を受けて、国会主導で食料予算ではなく遺跡発掘を予算化したこと。戦後の日本の考古学会をリードした若手研究者が活躍し、静岡市の高校生や先生方がボランティアで活動したこと。こうした、登呂遺跡をめぐるエピソードを漫画やイラストで紹介し、ストーリーとしてSNSも含めて情報発信する。 <p>【集客】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登呂遺跡、芹沢銚介美術館ともに、こちらを目的としての来訪を増やすべき。 登呂遺跡・博物館と芹沢美術館の来場者層がリンクしない。館の性格の違いがあるにせよ、両館を含め敷地全体を一体的に見せ、両館への入館を促進したい。 <p>【活かされていない景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 富士山の活用ができていない。 <p>【イベントの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> シズカン以外にも屋外イベントを開催する

	優れている点	改善すべき点
登呂博物館	<p>【充実した展示内容等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登呂遺跡から発掘された出土品や研究成果を展示する体験型ミュージアムとして、貴重な博物館である。 ・土器・木器・石器・石製品・金属製品の出土品が多く、重要文化財多数で玄人受けする。 ・博物館美術館の展示物が大変貴重なものばかりである。 ・縄文時代から弥生時代に至るまでの農業や生活の移り変わりがわかる資料が展示されている。 ・博物館の1階体験型と2階見学型が分かれていてコンセプトがはっきりしている。 ・1階の体験型の展示、企画展示、1階の他の遺跡の紹介コーナー ・博物館1階には自由に入ることができる。 ・図書コーナーにある県内の遺跡の発掘資料 <p>【恵まれた景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館屋上からの展望 <p>【ミュージアムショップの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売店にある特産品の品揃え <p>【施設の管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者が各場所に適切配置されている 	<p>【入館者数の減少等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間入館者数が減少している。 ・入場者が16.7万人で、うち有料者数が4.1万人(1/4)と少ない。 ・登呂博物館に来館する方の内、観覧しない方が37%もいること。 ・登呂博物館の歳入が歳出の10%程度で少ない。 ・インバウンドも200人/年程度で少ない。 ・博物館が有料。 ・16:30で閉館では早い。 ・登呂遺跡、芹沢銈介美術館ともに、こちらを目的としての来訪を増やすべき。 ・1階無料スペースがあるため、かえって有料部分に到達しない来館者があるのではないか。 <p>【集客】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登呂遺跡・博物館と芹沢美術館の来場者層がリンクしない。館の性格の違いがあるにせよ、両館を含め敷地全体を一体的に見せ、両館への入館を促進したい。 <p>【ミュージアムショップの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売店がお粗末。トロベージュズの販売も含めて商品の見直し、商品パッケージの見直しが必要。 <p>【施設の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登呂交流ホールが殺風景な空間になっているなど、施設の使い方が残念なところがあった。大学生に空間のプロデュースを任せるなどしてみてもよいのではないか。トロベージュもゆるキャラとして今一つ頭抜けていないところがあり、大学生の力を借りるなどしてもよいのでは。 ・施設内の利用について、公共施設、教育施設としての制限があり、魅力的な空間利用ができにくいのではないか。 <p>【海外旅行者への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示物の説明とホームページが日本語のみ。英語の説明とHPの英訳。
芹沢銈介美術館	<p>【充実した収蔵品等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間国宝・芹沢さんの作品、収集品を展示する施設としては貴重な美術館である。 ・博物館美術館の展示物が大変貴重なものばかりである。 ・芹沢銈介美術館は小さいながら所蔵品の質と量が高く、民藝ファンには人気の美術館。 ・収蔵作品そのもの ・芹沢銈介氏の作品はどれも大変素晴らしい。 ・芹沢さんの家も、当時のまま保存されていて、興味深い。 ・良い雰囲気があり、満足感が大きい。 ・平日でもそれなりの来館者があり、知る人ぞ知る存在。美術館としての価値は高い。生家も大事に保存されており、地元の人に大切にされている印象がある。 <p>【優れた建築物としての美術館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物だけでも観光の対象になる。 ・芹沢銈介美術館は建築的に大変素晴らしいデザインである。 ・中庭が見える部屋 ・白井晟一氏の設計による建物自体もとてもユニークで、集客力がある。フォト・ウェディングのアイデアはよいのでは。 <p>【ミュージアムショップの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芹沢銈介美術館のお土産ショップはお洒落な商品が数多く置いてある。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育普及事業が充実している。 	<p>【入館者数の減少等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登呂博物館に隣接しているにも関わらず、入館者数が少ない。 ・芹沢美術館の歳入が歳出の16%程度で少ない。 ・16:30で閉館では早い。 <p>【集客】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登呂遺跡、芹沢銈介美術館ともに、こちらを目的としての来訪を増やすべき。 ・登呂遺跡・博物館と芹沢美術館の来場者層がリンクしない。館の性格の違いがあるにせよ、両館を含め敷地全体を一体的に見せ、両館への入館を促進したい。 ・登呂遺跡との関連性はない。客層も全く異なる。コアなファンはいるが、数は少なく、集客施設としての核にはなりづらい。 ・認知度が減少している <ul style="list-style-type: none"> ・芹沢美術の愛好家には貴重な存在であるが、一般の方がどれだけ興味を持っているのか不明確である。 ・開館当時は、芹沢美術の殿堂として話題になったが、現在は開館から年数も経ち、その価値を理解している方が減少しているのではないか。 ・年代の高い方は芹沢さんを知っているが、若い方はどれだけ知っているのか疑問である。 ・誰のための美術館なのか？美術館の独りよがり（芹沢銈介の作品があり、設計者も含めすばらしい美術館、芹沢が世界各地で集めたコレクションの価値は、市民や静岡市訪問者には伝わっていない） ・ワークショップの開催場所がお粗末。もっと、利用者・入館者に優しく（登呂博物館1階の会場を利用できないか？） <p>【活かされていない建築物としての魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芹沢美術館を建物自体としての活用ができていない。 ・作品展示と建物を双方活かせる方法を検討。 ・作品保護のために建物を活かしていないのはもったいない。期間限定でよいので、建物メインの展示・貸出をすることも検討してもいいのでは。 ・建物については、美術館としての用途を優先すると、建物としては鑑賞しづらくなる面があり、活用上の課題となっている。 <p>【ミュージアムショップの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムショップの商品をもっと魅力的なものに。ディスプレイの仕方もダサイ。 <p>【収蔵品の管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品の劣化を最小限にするための対策を十分に行うこと（光、湿気対策の充実）
交通手段	<p>【自動車によるアクセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が完備されている。（来場者のアクセス60%が自動車） ・現在建設中のスマートインターに近い。 ・東名静岡東スマートインターチェンジの整備により、東名からのアクセスが向上し、東京方面からの集客増につながる事が期待できる。 <p>【公共交通機関等によるアクセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡からバスで約20分、東京、名古屋、関西にも近く県内各地からも需要がある。 ・交通至便で立地がよい。 	<p>【自動車によるアクセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は普通車60台規模で少ない。 ・東名静岡東スマートインターチェンジからはやや離れており、日本平・三保松原方面とは逆方向になるため、集客効果は限定的となる可能性がある。 <p>【公共交通機関等によるアクセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡街中・登呂双方のバス停がわかりにくい。

その他のご意見（ご提案）

【景観】
<ul style="list-style-type: none">・周辺民家とのマッチングが悪い。景観が合わない。視野を遮る植栽や壁は設置できるのか。・遺跡としてのスケール感が乏しい。敷地が狭く、象徴的な大型の建造物もない。周囲に民家も近接しており、異時代・異空間に降り立ったようなハレの特別感・高揚感を提供しづらい。
【休憩施設等】
<ul style="list-style-type: none">・小洒落たカフェ・レストランが無い。・カフェやレストランがなく、長時間滞在できない。・各美術館・施設内及びその周辺の飲食の場が充実されていない。・夜景を楽しめる施設が無い。・博物館の屋上は、富士山がきれいに見えて眺めがよい。カフェやビアガーデンとして活用できる可能性がある。・芹沢美術館については、展示にも建築にも見るべきものがあるが、鑑賞後に余韻に浸る余裕のスペースがない。ワークショップを屋外で実施せざるを得ない状況も改善すべき点と思われる。・博物館屋上からの遺跡の眺めもよい。田んぼアートも行われているとのことであるが、このような立体的な視点・使い方の可能性もある。夜のイベントも考えられるのでは（星空×プロジェクションマッピングなど）。・博物館屋上の展望への誘導と、遺跡全景と富士のセットを背景に写真の自撮りのできる台の設置
【宿泊・体験】
<ul style="list-style-type: none">・2000年前の雰囲気や快適に泊まれる設備が無い。・建築規制もあるが、体験型の施設はどうか。例) 弥生時代の生活が体験できるキャンプ施設。太古の生活を体験するために単独参加を前提とする（一人ぼっちでの「ポッチキャンプのみ」）団体は騒ぐので不可。<ul style="list-style-type: none">・夜は、天体解説者や古代の楽器演奏者を招いて演奏会・コンサート等を開催。・安全性を確保したうえで、女性一人でも宿泊、飲食ができる。・手ぶらで来ても、弥生の生活気分が味わえる。・ナイトミュージアム的な運営も検討価値があるかもしれません。・参加体験施設としてはさらなる可能性あるのでは（古代キャンプなど）。・子ども（幼稚園児以外）だけでなく、地域外の一般の大人も田植え・刈り込み体験ができる機会 + 参加費の徴収により、運営を少しでも安定させる。
【観光ルートの開拓・周辺施設との連携】
<ul style="list-style-type: none">・周辺エリアに、日本平、久能山東照宮、日本平動物園など集客力のある観光・歴史文化施設があり、それらに埋没している感がある。逆にそれら施設と連携して一体的に売り込むことが必要ではないか。・三保、日本平、久能山から登呂、用宗、焼津に至る150号と東名利用の観光ルートの振興・登呂エリアのみでは限界がある。静岡駅・市街地から少し離れていることもネック。市内の観光資源のネットワーク化の検討が必要。・駿府城跡での市内の観光スポットのPR展示→歴史文化施設に発展・ふじのくに地球環境史ミュージアムとの連携（特に移動ミュージアム）・学校教育との連携強化（先生方向けの研修会を夏休み等に開催）
【「まちは劇場」との連携】
<ul style="list-style-type: none">・まちと一体化している点を生かして、「まちは劇場」のコンセプトをうまく体現できれば、新たな可能性が開けるのでは。
【周辺地域への波及効果】
<ul style="list-style-type: none">・周辺に民間施設（売店等）が少なく、地域への波及効果が見えない。・遺跡周辺への観光業の立地促進策の検討（やまだいちもちの家、旧弥生茶屋との関係も考慮）
【情報発信】
<ul style="list-style-type: none">・北側ガイダンス施設にある遺跡発掘の漫画の拡大版を博物館にも設置。さらに、遺跡の意味を紹介するパネルを駐車場にも設置。・静岡駅南口の観光案内パネルの設置（路線バス利用者向け）・登呂遺跡については、その価値をしっかりと伝えることができていないと感じる。2階有料ゾーンに行かなければ、登呂遺跡の何たるかを示すものが見当たらないため、駐車場から博物館まで、水田跡もその重要性がわからずに通過することになる。・気軽に来場、来館してもらうための工夫と専門的な内容をわかりやすく伝えることには違いがあり、復元遺跡、博物館1階部分からは遺跡の重要性が感じられない。
【観覧料】
<ul style="list-style-type: none">・博物館又は芹沢美術館への入館は、駐車場代を払えば半額に減免する。
【駐車場（駐車料金）】
<ul style="list-style-type: none">・廃屋をそのままにした駐車場のたたずまい、オペレーションのしかたで期待感が薄らぐ。・入場料300円の博物館の駐車場が400円。印象的に高いと感じてしまう。・駐車場が有料。・駐車場が有料である。2時間無料などの前提で無人管理（コインパーキング方式）。2時間を過ぎた場合には有料などにして、人員配置を別に振り分ける。
【公共交通機関】
<ul style="list-style-type: none">・公共の交通機関でのアクセスがあまり良いとは言えない。・駅・駿府城公園・市内観光地とのアクセスが不便。・駿府浪漫バスが通らない・週末は静岡駅からシャトルバスを走らせてもらいたい。
【地域住民との関係】
<ul style="list-style-type: none">・街中にあり、民家と近接しているため、騒音等の問題がある。駐車場が狭いこともネック。周辺の地元の人を巻き込み、地元の人と一緒に楽しむことができ、メリットがある事業スキームを構築する必要がある。